

第4章	事業計画	1	① 事業内容 (図書館機能)		
項目	現状	第3章での事業方針 基本構想での位置づけ	調整方針	ワークショップでの議論 <6/19 第3・4回WS>	
A1. 開館日・開館時間	<p>【1】火～金(9:00～20:00) 【2】土・日・祝日(9:00～18:00) 【3】学習室も図書館と同時に閉館 【4】年末年始は休館(12/29～1/4) 【5】蔵書点検 10日間休館 【6】月末木曜日休館</p>	<p>『ライフステージ』をアシスト</p> <p>i 市民生活を豊かにする「本・情報・知の拠点」として、人生の課題・問題の解決、進学・就業・子育てなど若年層の巣立ち、あるいは生涯学習・自己研鑽をアシストする。</p> <p>ii 「人と人」「人と本」「人と情報」を結びとともに、仲間探しや各世代の交流により、知恵袋の「人材図書館」として、互いに成長することから生まれる価値や創造、まちの賑わいや魅力づくりをアシストする。</p> <p>iii 誰もがいつでも気軽に行ける、また行きたくなる憩いの場所として、滞在したくなるイメージを醸し出し『わたしの“サードプレイス”』というコンセプトをもとに、萌え出る知的探求心をアシストする。</p>	<p>1. 平日 (9:00～20:00) 2. 土・日・祝日 (9:00～18:00) 3. 図書館閉館後の学習場所については、フリースペース、共用スペースを活用することにより、管理部門によるコラーレ並み(9:00～22:00)の時間設定を検討する。また、夏休み期間等のニーズに対応した利用方法を検討する。 4. 開館日・開館時間は施設全体で調整する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【検討事項】 県内図書館の開館・休館日の状況を参考に検討。(開館・閉館時刻の状況は次のとおり) ○平日 開館時刻 9:00 黒部市、魚津市、滑川市、高岡市 9:30 氷見市、富山市、砺波市、小矢部市、南砺市、射水市、立山町、入善町、朝日町 10:00 上市町、舟橋村 閉館時刻 21:00 魚津市 20:00 黒部市、高岡市 19:30 朝日町 19:00 富山市、南砺市、立山町、舟橋村 18:30 滑川市、砺波市、小矢部市、射水市 18:00 氷見市、入善町</p> <p>○土・日・祝日 開館時刻 9:00 黒部市、魚津市、滑川市、富山市、高岡市、朝日町 9:30 砺波市、小矢部市、南砺市、射水市、立山町、入善町 10:00 氷見市、上市町、舟橋村 閉館時刻 19:00 立山町 18:00 黒部市、滑川市、富山市、上市町、入善町 17:00 魚津市、氷見市、高岡市、砺波市、小矢部市、南砺市、射水市、朝日町、舟橋村</p> <p>【調整方針の説明】 現在の開館、閉館時刻は、県内の他の自治体と比べて長時間の設定となっている。時間帯別の利用者を見ると、平成29年度の19時以降の利用者数は1日平均3.4人(学習室利用者含む)であり、あまり多くない。開館日、開館時間の設定については、県内の状況や今後見込まれる利用状況をふまえて検討する。</p> </div>	<p><1>開館日・開館時間(図書館) a.図書館の開館日・開館時間はいままで通りでよい。 b.図書館の開館時間や休館日等は当初、現状維持で、様子を見て拡充を検討すればよいのではないかと。 c.あまり人が来ないので、平日は20時まででよい。 d.キッズコーナー、児童図書コーナーは、他よりも早く閉館してもいいのではないかと。 e.閉館時間が、平日と休日が異なっているとわかりにくい。一緒にしてはどうか。</p> <p><2>開館時間(館全体) a.公民館等、交流機能のスペースについては柔軟に対応いただきたい。 b.仕事後に利用したい。コラーレと同じくらいの時間がよい。 c.遅めの終業時間で働く人も利用できる場であってほしい(夜、開いている店舗等が少ない)。 【1・2回WS】 d.朝5時開館なら「朝活」が行える。出勤前の朝の時間を有効に活用して勉強会をしている例がある。婚活にもつながる。 ▶ 図書館はこの時間に開けられなくても、生涯活動スペースで朝活ができれば。 ▶ サマータイムなど特別な日を設けて、朝早く開館させることもできるのでは。 e.電車の時間に合わせた閉館時間にできないか。公共交通(バス)は22時がない。マイカーのない人は22時以降来られないので、22時以降は開けなくてもよいのではないかと。</p> <p><3>開館日(館全体) a.開館日のパターンが複数あるとわかりにくいので、休館日は例えば年末年始だけ等にしてはどうか。 b.都内では年末年始も開館している図書館もあるが全国的には少数。黒部として年末年始の図書館開館は必要かどうか。 c.図書館の蔵書点検中(休館)、他の機能はどうするのか。</p>	

第4章	事業計画	1	① 事業内容(図書館機能)		
項目	現状	第3章での事業方針 基本構想での位置づけ	調整方針	ワークショップでの議論 <6/19 第3・4回WS>	
A2. サービス (1)質問・相談 コーナー(レフ ァレンスサービ ス等)	<p>【1】図書館の機能を活用して、利用者の質問に回答</p> <p>【2】調査研究や資料検索の援助</p> <p>【3】現状では「10件程度/日」の対応等</p>	<p>●想定される事業展開(構想 P21-24より抜粋)</p> <p>・利用者の様々な課題を解決するため、図書館利用者が求める図書資料や情報について相談に応じるレファレンスサービスの充実</p> <p>・多様な世代や障がいのある人が健やかで豊かに暮らせるための学習支援やユニバーサルデザインによるサービスの充実</p>	<p>1. 質問、相談コーナーは、利用者の多様なニーズに対応できるサービスに努める。(相談受付体制の整備)</p> <p>2. レファレンスサービスについては、幅広い分野に対応できるよう、職員相互、他機関での研修などにより能力向上を図る。</p> <p>3. 大活字、点字、音訳ボランティア、朗読本、CDの充実を図り、ユニバーサルデザインによる誰もが利用しやすい環境を整備する。</p> <p>4. 学生等によるボランティアや臨時職員(パート)等の趣味や得意分野等を生かしたサービス提供や接客を検討する。</p> <p><用語説明> ※レファレンスサービスとは 図書館利用者の日常生活や仕事上の疑問、調査・研究等に対して、図書館の資料を使って回答したり、必要とされる資料を検索、提供したりするサービス。 ※ユニバーサルデザインとは 年齢や障がいの有無、体格、性別などにかかわらず、誰もがわかりやすく利用しやすいように製品、建物、空間等をデザインすること。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【検討事項】 司書の配置、職員等スタッフの能力向上。</p> <p>【調整方針の説明】 司書による他の職員、スタッフへの研修等により、互いに能力向上に努め、より質の高いサービスを保持する。 ボランティアスタッフや臨時職員(パート)等の趣味、得意分野を生かしたイベント開催や接客を検討し、より幅広いサービス提供をめざす。</p> </div>	<p><1>レファレンス</p> <p>a.図書館の各階(3・4階)に専属で1名以上レファレンスができる司書を置いてほしい。</p> <p>b.レファレンスしやすいよう職員と交流する場があったらよい。親しみやすい雰囲気であってほしい。蔵書検索しているとき、声をかけてくれるとうれしい。</p> <p>c.地域観光ギャラリーの利用があまりなく、来館者に積極的に声をかけていて、お客さんの待ち時間の状況にあわせて説明すると思いのほか反応がよい。図書館でも積極的に声をかけてはどうか。</p> <p>d.「レファレンス」という言葉は一般市民に知られていない。本探しをお手伝いするコンシェルジュというネーミングや、分かりやすい場所へのレファレンスコーナーの設置、分かりやすい看板が必要。</p> <p><2>本の配架・工夫</p> <p>a.決まり通りにするだけでなく、わかりやすい本の配架が望ましい。一人でも本が探しやすい棚づくりをしてほしい。</p> <p>b.カテゴリー別の配架ではない、行って見て楽しい本屋さんのような展示の仕方をしてもらいたい。</p> <p>c.企画展示をして欲しい。自分の好み以外の本を知ることができる。</p> <p>d.読書会を会議室で行うのではなく、まわりから見えるような場で行うとよい。</p> <p><3>付加サポート</p> <p>a.自分でコピーを取るのは可能か?(図書館資料の複製は著作権法の規定があり、利用者に都度説明している)</p> <p>b.図書館での本の販売は可能か? → 他自治体での事例はある。売店や市内本屋との連携、市内書店のサポートなど。</p>	

第4章	事業計画	1	① 事業内容(図書館機能)		
項目	現状	第3章での事業方針 基本構想での位置づけ	調整方針	ワークショップでの議論 <6/19 第3・4回WS>	
(2) 登録・貸出	<p>【1】読書案内(利用者が要求する資料を提供)</p> <p>【2】予約(資料の取り置き)、リクエスト(蔵書にない資料を他館から借りたり、新規に購入したりして提供)</p> <p>【3】資料はバーコード管理し、スタッフが貸出・返却対応</p>		<p>1. セルフレジ(「ICタグ化」または既存のバーコード読み取り式:西脇市で導入)を設置し、利用者のプライバシーを保護する。</p> <p>2. 市外在住者(出身者・縁故者・旅行者等)の利用への対応。</p> <p>【検討事項】 現行の貸出、返却対応では、利用者のプライバシー保護が十分ではない。(プライバシー保護の必要がある) 現状は市内在住者、勤務者に図書カードを発行。</p> <p>【調整方針の説明】 ICタグを導入したセルフレジにより、プライバシーの保護を図る。また、蔵書点検作業の効率化にも努める。(開館日数の増加を検討)</p>	<p><1>セルフレジ a.「ICタグ」システムを導入して、人員配置が抑制できれば、閉館時間を遅くしてもよいのではないか。</p> <p><2>貸出対象者 a.県内在住まで対象を広げてはどうか。 b.旅行者も借りたいのではないかと。(現在例外的に、宇奈月館ではキャンピングカーで滞在する方々に貸出をしている)。</p>	
(3) 学習室	<p>【1】50席を設置(2F学習室)</p>		<p>1. 利用者一人ひとりが、静かな環境の中で集中して自由に読書や学習できるスペースを設置する。</p> <p>2. センター内のフリースペース、共用スペース等を学習の場、ビジネス支援の場(資格取得等の学習)として活用することで、従来の静寂な学習室のほかに、少しにぎやかな環境で学生等が自由に読書や学習に利用したり、議論や交流したりできる場の提供を検討する。</p> <p>【検討事項】 従来の静寂さが求められる学習室を設置するほか、多様な利用者への対応が必要となる。</p> <p>【調整方針の説明】 一人で静かに利用、数人のグループで会話しながら少しにぎやかな雰囲気での利用など、さまざまな学習形態のニーズに対応できる場を設置する。</p>	<p><1>ゾーニング(静かな場所・にぎやかな場所) a.静かなスペースと賑やかなスペース両方が必要で、「静か」と「賑やか」の兼ね合いをどうするか検討が必要である。 b.学習の目的(試験勉強は個別で学べる静かな環境。友達との勉強は賑やかに勉強する)等で必要な環境が異なるので、それに対応する空間が必要。 c.学習室は多様なあり方が望ましいのではないかと(個人学習、グループ学習、にぎやかな空間等)。【1・2回WS】 d.親子での利用、静かでなくて良い「子ども学習室」があるとよい。年齢・用途別に分けてはどうか。 e.ルールのもと、おのおのスタイルで居場所があるようにする。 f.パソコンが利用のスペースがほしい。ただ、キーボードを打つ音の問題は要検討。</p> <p><2>学習室の利用時間 a.交流センターの立地条件を考えると桜井高校生の利用が多くなると想定される。コラーレを見ていると夜22時まで学習室の利用が見込めるのではないかと(勉強だけでなく、仲間との交流の場として)。 b.図書館より学習室を遅くまで使えるようにするとよい。図書館以外の場で学習室があったほうがよい。</p>	

第4章	事業計画	1	① 事業内容(図書館機能)		
項目	現状	第3章での事業方針 基本構想での位置づけ	調整方針	ワークショップでの議論 <6/19 第3・4回WS>	
(4) その他ネットワーク・連携	<p>【1】広域図書館とのネットワーク</p> <p>【2】図書展示と連携したセミナー、教室の開催(美術館、吉田科学館、歴史民俗資料館との連携)</p>	<p>☛想定される事業展開(構想 P21-24より抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館への支援により、子どもの学ぶ意欲を引き出し、心の豊かさを育む事業 ・国際理解教育等が進められており、子どもたちが広い世界で活躍できるよう支援する事業 	<p>1. 現状のサービスレベルを引き継ぐ。(相互貸借等)</p> <p>2. さらに、市内外の学校、社会教育、文化施設、医療や福祉等、他機関や他分野の事業との連携を図り、広く情報提供していく。</p> <p>3. 国会図書館デジタル送信サービスの導入を検討する。(滑川以東の中核図書館として、専門性の高いニーズに対応するため導入を検討する)</p> <p><用語説明> ※国会図書館デジタル送信サービスとは 国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を全国の公共図書館等で利用できるサービス。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【検討事項】 他機関、他分野との連携による幅広い情報提供。</p> <p>【調整方針の説明】 さまざまな分野との連携方法を検討し、より幅広く、特色のある情報提供につなげる。 国会図書館デジタル送信サービスの導入に向けた環境整備および国会図書館との調整が必要。</p> </div>	<p><1>美術館や吉田科学館との連携 a.「5分野7機能」の融合にとどまらず、美術館や科学館等とのコラボを生み出す。また、科学実験教室等、体験型の機会の提供もするとよい。</p> <p><2>学校との連携 a.図書館から学校への本の運搬にシニアボランティアの活用(元校長など)をしてはどうか。 b.射水市のように小中学校と図書館を一枚の貸出カードで本が借りられるようにできないか。 c.保育所、学校等とのつながりを、どのように作ってほしいのか。【1・2回WS】</p>	
A3. 資料 (1)一般蔵書	<p>【1】利用者からのリクエストと流行やパランス・各館の特色等を職員が総合的に判断し選定している。</p> <p>【2】黒部市に関する各種資料(図書、新聞、雑誌、行政資料等)、黒部市周辺および県内全域に関する歴史的資料等を収集している。</p> <p>【3】蔵書数(H30.3.31 現在) 174,471 冊 うち開架冊数 63,480 冊 (参考)宇奈月館蔵書数 73,367 冊</p>	<p>☛想定される事業展開(構想 P21-24より抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジオパークを意識した「山岳」「河川」「水」に関する資料や「北方領土」に関する資料の積極的な収集と情報発信 ・宇奈月館との役割分担による電源開発や山岳ルート開拓の資料を収集管理していく事業 <p>☛想定される機能の規模(構想 P32より抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蔵書冊数 250,000 冊 ・開架冊数 160,000 冊 	<p>1. 蔵書選定の方針および除籍に関する内規(策定済)に基づいて執行する。また、市民のニーズ調査により選定する。</p> <p>2. 雑誌の購入については、スポンサー制度も検討する。(広告の募集と掲載)</p> <p>3. 黒部について触れられた資料を積極的に収集・展示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【検討事項】 蔵書選定、除籍の方針等、資料収集の方針。</p> <p>【調整方針の説明】 資料収集の方針および蔵書選定、除籍の基準を明確にする。また、市民のニーズ把握にも努める。 郷土資料に関しては、ジオパークを意識した「山岳」「河川」「水」に関する資料や「北方領土」に関する資料、さらに宇奈月館では、より専門的な電源開発や山岳ルート開拓に関する資料の充実を図る。</p> </div>	<p><1>黒部に関する資料 a.黒部市には民話が残っている。民話を集めて紙芝居をつくり活用する。 b.黒部らしい蔵書。人が来てくれるようなものがよい。 c.黒部ゆかりの人の本を置くとよい。加えて、黒部を題材にしたもの等在前面に出してはどうか。 d.黒部市のみではなく入善、魚津等に関する展示(地図の上に本をディスプレイする等)。 e.宇奈月館の発展の方向性はどうなっていくのか。【1・2回WS】</p> <p><2>閲覧の工夫 a.画集等、重い本の近くに机があると、持ち運ばずにその場で読める。閲覧室にも読むスペースがあると、棚にある本を手にとってすぐに読める。 b.子ども用と大人用スペースのバランスの検討が必要なのではないか。 c.黒部市に関わる物事を展示することで、郷土への関心を育むことができるのではないかと。【1・2回WS】</p>	

第4章	事業計画	1	① 事業内容(図書館機能)		
項目	現状	第3章での事業方針 基本構想での位置づけ	調整方針	ワークショップでの議論 <6/19 第3・4回WS>	
(2) CD・DVD・BR 等	<p>【1】主に寄付を受けて所蔵している。</p> <p>【2】視聴覚資料数(H30.3.31 現在) 1,303(ビデオテープ、CD、DVD、録音テープ)</p>	<p>●想定される事業展開(構想 P21-24 より抜粋)</p> <p>・図書のほか映像や音楽等の資料の充実</p>	<p>1. 主に郷土資料に関するものに特化して所蔵する。(その他の流通品は著作権の関連やレンタル業などの民業との棲み分けをするため購入基準等対応を検討する。)</p> <p>【検討事項】 所蔵の方針、基準。</p> <p>【調整方針の説明】 高額な資料であるため、レンタル業(保険、年会費等の利用者負担あり)との目的の違いを明確にし、購入基準等を検討する。(館内閲覧に限定して利用するなど。)</p>	なし	
(3) データベース(デジタルアーカイブ含む)	<p>【1】一部資料(新聞4紙)の見出しをデータ化し、利用者の資料検索等に活用している。</p>	<p>●想定される事業展開(構想 P21-24 より抜粋)</p> <p>・郷土が誇る文化や歴史、自然、産業などの先人の知恵や工夫、苦勞を収集・記録・保存し、地域の財産として後世に伝えていく事業</p> <p>・膨大な行政資料や歴史文書のデジタル化、黒部市の雄大な自然や文化、風習などのデジタル映像化の推進など、資料価値の高度化を推進する事業</p>	<p>1. 未来への記録を伝えるため資料のデータ化を進める。</p> <p>2. 図書館が所蔵する郷土資料等のうち一定の基準で選定したもの(劣化の激しい資料や教育資料として活用されるもの等)について、デジタルアーカイブ(デジタル化して保存し、広く公開)の運用を検討する。</p> <p>3. 他機関等と連携し、図書館所蔵以外の文化的、歴史的資料の保存、継承について検討する。</p> <p>【検討事項】 デジタルアーカイブ運用の基本方針と実施計画。</p> <p>【調整方針の説明】 将来に向けて、デジタル化して保存、公開することが望ましい資料の選定と運用について検討する。 図書館所蔵の資料だけでなく、他機関等における文化的、歴史的資料の保存、継承に努める。</p>	<p><1> 黒部のデジタルアーカイブ</p> <p>a. 黒部の昔の写真を収集し、若い世代に受け継げるとよい。</p> <p>b. 昔の写真を見ることでシニアの方の回想法にもつながる。(過去の懐かしい思い出を語り合ったり、誰かに話したりすることで脳が刺激され、精神状態を安定させる効果が見込める)</p>	

第4章	事業計画	1	① 事業内容(図書館機能)		
項目	現状	第3章での事業方針 基本構想での位置づけ	調整方針	ワークショップでの議論 <6/19 第3・4回WS>	
A4. 集会活動等	<p>【1】「読み聞かせ」のほか、「科学館・美術館」と連携した教室開催・企画展示を実施している。</p> <p>【2】図書館と図書館資料の利用を促進するための活動(読書会、講演会、展示会、講座・講習会、おはなし会、子ども会等)を実施している。</p>	<p>●想定される事業展開(構想 P21-24より抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種企画展の開催など滞在しながら学習することができる事業 ・生活関連図書などの充実や市民の多様なライフスタイルに対応できる情報の充実、市民の暮らしに役に立つ事業、季節などに応じた特集コーナーの開設 	<p>1. 「交流センター内の連携による教室開催」、「高齢者のニーズに応じたサービス」、「障がい者・来館困難者に対応したサービス」のほか、若年層教育・成長支援として「子育て支援と連携したサービス」、「若年層を中心としたビジネス支援」、「就職情報について中・高・大学生等へのアウトリーチ」など、本センターの独自性・新規性を醸し出す。</p> <p>2. 常に情報の発信拠点として、時代のニーズに対応した事業を実施する。</p> <p><用語説明> ※アウトリーチとは 援助が必要な人に対して、公共機関などが積極的に働きかけて、支援の実現をめざすこと。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【検討事項】 従来から行っている活動を基本として、より幅広いニーズに対応する。</p> <p>【調整方針の説明】 それぞれの年代における課題やニーズをふまえた魅力ある情報発信を行い、家庭や仕事、地域の活動などさまざまな場面での支援につながる有益な情報提供、活動や学習機会の提供などを行う。</p> </div>	<p><1>交流センター内の連携による教室開催</p> <p>a.映画の上映(古いものでもいい、曜日と時間を決めて実施)。ただの上映ではなく、たとえば花屋が主役の映画であれば、地元の花屋さんがオーディオコメント的にトークする等。飲食可での交流の機会もあるとよい。</p> <p><2>高齢者のニーズに応じたサービス</p> <p>a.若い人からシニアまで一緒に楽しめる活動を提供する(認知症に良いといわれる健康マージャンや囲碁、オセロ等)</p> <p>b.「読み聞かせ」はシニア向けにも有効である。音読してもらうことで認知症対策にもなる。</p> <p>c.(那覇市若狭公民館のように)シニア向けにアルバム持ち寄りお茶会や、参加者が一品料理を持ち込む月一朝食会を開催してはどうか。</p> <p>d.シニア支援とは、元気で長生きしていただくための支援にしたい。</p> <p>e.ベビーカーだけでなく、シルバーカーを駐車する場所も必要。また館内ではカートで移動かと思う。その対応はベビーカー対応と重なるのではないか。</p> <p><3>障がい者・来館困難者に対応したサービス</p> <p>a.ユニバーサルデザインにすれば、障がいを持つ方だけでなく乳幼児からお年寄りにまでやさしいのではないか。</p>	

第4章	事業計画	1	① 事業内容(図書館機能)		
項目	現状	第3章での事業方針 基本構想での位置づけ	調整方針	ワークショップでの議論 <6/19 第3・4回WS>	
A5. 広報	<p>【1】HP、市広報、CATV、FB を活用している。</p> <p>・ホームページなどによる図書館からの情報発信や、メールマガジン・SNS を利用した情報交換・交流</p> <p>・地域情報や行政情報の充実、図書館の情報力が人と人、地域と地域をつなぐ事業</p>	<p>●想定される事業展開(構想 P21-24 より抜粋)</p> <p>・ホームページなどによる図書館からの情報発信や、メールマガジン・SNS を利用した情報交換・交流</p> <p>・地域情報や行政情報の充実、図書館の情報力が人と人、地域と地域をつなぐ事業</p>	<p>1. 既存の媒体については魅力的に充実させていく。</p> <p>2. 交流センター月刊誌発行も検討していく。</p> <p>3. 子どもから高齢者まで、さまざまな年齢層にわかりやすい表示による発信を行う。(デジタルサイネージ)</p> <p><用語説明> ※デジタルサイネージとは 屋外・店頭・公共空間・交通機関など、あらゆる場面で、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するシステムの総称。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【検討事項】 市民が必要とする魅力ある情報の提供を行う。</p> <p>【調整方針の説明】 各年代のさまざまなニーズに対応した幅広い情報を発信し、市民の活発な利用や活動を促す。</p> </div>	<p><1> 掲示板</p> <p>a. 上層階にある図書館について知ってもらうため、1階のエントランスに大きな掲示板をつくり、本のランキングや新刊の紹介することで、上に誘導する。</p> <p><2> 情報発信</p> <p>a. 高校生向けには LINE や Facebook、HP での情報提供が必要。特に学習室の空席情報等リアルタイムな情報をツイッター等を出してはどうか。</p> <p>b. 駐車スペース空き情報や会議室の予約等もネットを使い最新情報を出せないか。</p> <p>c. ネットも良いが、紙ベースの広報の需要はあり、廃止はしてほしくない。</p> <p><3> 写真展示等による集客</p> <p>a. 平日中はシニア世代か子育て世代が利用の主となる。さらなるシニア世代の利用を促進するには、例えば孫の写真展示等が誘引になる。</p> <p>b. 広報データの写真を館内のサイネージで流すとシニアの人たちは家族の写真や昔の写真を見に来るのでは。気に入った写真を三日市の写真店で現像できるといったつながりをつくれるのでは。</p> <p>c. 成人式の写真等を館内で見られるようにすれば、若者の来館機会となるのではないか。</p> <p>d. 同窓会名簿を管理して、同窓会を開く支援をすると、図書館に来ない人も来る機会になる。</p> <p>e. ピロティ等でイベントを行い、中に人を誘導する。</p> <p>f. 図書館(交流センター)ツアーをやってみてもいいのではないか。</p> <p>g. たとえば、認知症について等、市民が知りたい情報を掲示し、さらに知りたい人は図書館に来てもらう等、図書館に来てもらう仕組みづくりが必要。</p>	

第4章	事業計画	1	① 事業内容(図書館機能)		
項目	現状	第3章での事業方針 基本構想での位置づけ	調整方針	ワークショップでの議論 <6/19 第3・4回WS>	
A6. ボランティア等の活用	<p>【1】読み聞かせボランティア 【2】音訳ボランティア</p>	<p>●想定される事業展開(構想 P21-24より抜粋)</p> <p>・図書館の運営に幅広い市民の参加と協働を求め、読み聞かせボランティアなど市民目線での管理運営ができる事業</p>	<p>1. 豊富な経験や知識を活かした図書館ボランティアにより、多様なニーズに対応した活動を行う。</p> <p>2. 学生等による「ボランティア」または「アルバイト」により、図書整理・企画展・青少年サービス管理などの対応をし、施設内の新鮮さを醸し出す。</p> <p>3. ボランティアによる世代間交流を図る。</p> <p>4. 障がい者への対応等。(市報の音訳などの支援)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の自主的な運営によるボランティアの育成。 <p>【調整方針の説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊富な経験や知識を持つ人材の確保し、自主的なボランティア活動の運営を促す。 ・若い学生等の学習経験を活かしたボランティア活動や社会体験、市民との交流の場として活用する。 </div>	<p><1>ボランティア等</p> <p>a.「14才の挑戦」や「インターンシップ」等を、市民交流センターとして受け入れてみてはどうか。若者へのアプローチにもつながる。</p> <p>b.シニアの方の力やノウハウを借り、市民交流センターの運営に活かしていけばよいのではないか。</p> <p>c.市民交流センターにシニアボランティアサークルをつくってはどうか。シニア世代の居場所になる。</p>	

第4章	事業計画	1	① 事業内容(図書館機能)		
項目	現状	第3章での事業方針 基本構想での位置づけ	調整方針	ワークショップでの議論 <6/19 第3・4回WS>	
A7. ビジネス支援(再掲)	【1】ハローワーク求人情報等の冊子を設置。		<p>1. ハローワークとの連携による就職支援情報を提供する。</p> <p>2. 図書館機能においてビジネス関連(就活本・起業本等)コーナーの設置や企画展の検討をする。 (新生活を支援するビジネスマナーに関する企画展など)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所との連携、役割分担、すみわけの確認必要。 <p>【調整方針の説明】</p> <p>就職、起業などビジネスに関するニーズを把握し、参考となる企画展等を開催、ビジネスのさまざまな場面での支援を検討する。</p> </div>	<p><1>就職支援情報提供(ハローワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> a.若者の就職をサポートする活動をする。 b.求職者のプライバシーの確保 <ul style="list-style-type: none"> どこかに集中してビジネス支援機能コーナーをつくるのもいいが、例えば、ハローワーク情報は、他のチャリンスペースにも置くことにより、プライバシーへの配慮をする必要がある。(ex.妊娠の場合なども)。 <p><2>ビジネス関連(就活本・起業本等)</p> <ul style="list-style-type: none"> a.資格試験の参考書を図書館閉館後も閲覧可能な場所においてほしい。 b.資格試験対策の勉強のための図書館利用だけでなく、その際に資格講座が市民交流センターで開催され、受験者同士の交流も行われるとよいのではないかと【1・2回WS】 <p><3>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> a.商工会議所で取り組んでいる事業も数多くあるので、これらのセミナーの展開も取り込んでいけないか。「起業」に限定するのではなく、いま最大の課題となっている「事業承継」を課題として設定したほうがよいのではないかと【1・2回WS】 b.学生と働いている世代が知り合い、情報交換する機会があってもよいのではないかと【1・2回WS】 c.学生のうちから大人になって生きるためのしきたり、マナー、生きる力を学ぶ機会があってもよいのではないかと【1・2回WS】 	

第4章	事業計画	1	① 事業内容(図書館機能)		
項目	現状	第3章での事業方針 基本構想での位置づけ	調整方針	ワークショップでの議論 <6/19 第3・4回WS>	
A8.子育て支援	<p>【1】出産・育児本の設置 【2】子育て等関係機関のチラシ設置 【3】絵本の読み聞かせ会開催 (ボランティア、あいじ福祉会、図書館職員)</p> <p>※親子等がゆったり過ごせるスペースが少ない。(児童室 72㎡) また、飲食や授乳おむつ替え専用室、子供専用のトイレが整備されていない。</p>	<p>●想定される事業展開(構想 P21-24より抜粋)</p> <p>・次世代を担う子どもたちの豊かな感性を育むため、本との出会いや読書の魅力に触れる機会を与える事業</p>	<p>1. 現状のサービスレベルを引き継ぎながら、子育て支援センター等他機関との連携により、書籍を活用した育児講座など開催する。また、掲示版等を利用し広く情報提供をしていく。</p> <p>2. 親子がおしゃべりしながらゆったり安心して過ごすスペースの設置を検討する。</p> <p>3. 親子で読書できるコーナーの設置を検討する。</p> <p>4. 飲食スペースや授乳室の設置を検討する。</p> <p>5. おむつ替え、フィッティングボード、車椅子、障害者に対応した多目的トイレの複数設置を検討する。</p> <p>6. トイレに子ども用の便器の設置を検討する。</p> <p>7. 3階にベビーカー置き場の設置を検討する。</p> <p>8. ベビーカーごと利用できるエレベーターの設置を検討する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【検討事項】</p> <p>・子育て支援センターとの連携の方法。子どもとその親が利用しやすい環境の整備。ニーズをふまえた事業の実施。</p> <p>【調整方針の説明】</p> <p>子どもや子育て中の親を支援する環境の整備、情報の発信、事業の企画を行う。</p> </div>	<p><1>棲み分けなど</p> <p>a.キッズコーナーと子育て支援センターの棲み分けは重要。次回きっちりしてほしい。</p> <p>b.子育て支援機能と子ども図書館機能をどう切り分け、利用のバッティングを避けるすみわけが実現できるか【1・2回WS】</p> <p>c.部屋で区切るのではなくオープンスペースで親子の読み聞かせを開催してはどうか。</p> <p><2>トイレ設備</p> <p>a.男女トイレに1,2個程度「子供用補助便座」が必要</p> <p>b.宇奈月子育てセンターのトイレが参考に</p> <p>c.他人との接触をさげ外出時お洋式を使わない方もいるので和式も必要</p> <p>d.限られたスペースを有効活用する工夫が必要(多目的のベッドあり等、様々なパターン)</p> <p>e.ゆとりのある多目的トイレの設置等</p> <p>f.男性目線からしても充実した多目的トイレが複数あるとありがたい</p> <p>g.3階は子ども専用のトイレがあっても可(他の階では補助便座を設ける)</p> <p>h.子ども用トイレは3階だけでなく、各階に置くべき。最低でも1階には必要</p> <p>i.トイレにトイレの本を置かないか(貸出とは別)</p> <p><2>飲食スペース設備</p> <p>a.授乳専用室だとママ以外使いにくいので、「ベビースペース」としてはどうか</p> <p>b.お湯もある授乳コーナーだとおしりも使いやすい。</p> <p>c.新施設がサードプレイスなので利用しやすいものであるべき。</p> <p><3>その他の設備</p> <p>a.子ども用のいすもあってもいいが、子育て支援センター利用者はハイハイ年齢なので、畳や寝ころびスペースで読み聞かせもできたらよい。</p> <p>b.公民館(生地)にあるように子どもたちが寝転がれるスペースがあるとよい。</p> <p>c.人工芝等による裸足で使える設えがあることが望ましいのではないかと。【1・2回WS】</p> <p>d.戸締り等は警備会社へ委託するのか。図書館いろんな人に自由に利用してもらいたいが、子育て支援センター等は不審者対策が必要ではないかと。</p>	

第4章	事業計画	1	① 事業内容(図書館機能)		
項目	現状	第3章での事業方針 基本構想での位置づけ	調整方針	ワークショップでの議論 <6/19 第3・4回WS>	
B. 機能融合による新しい価値の創出			<p>「図書館機能」に関し、市が実施主体となる場合や、他機関・民間団体・市民等が事業主体となる場合を含め、「(仮称)くろべ市民交流センター」において、次のような事業が実施されることを検討する。</p>	<p><1>機能融合に向けての認識 a.一般論として、市役所では部署ごとの押し付け合いの問題がある。市民交流センターの開業までは陣取り合戦で、開業後は押し付け合いをし始める。 b.黒部市は保守的である。塩尻市のやり方が黒部市で通用するのかが疑問である。 c.複合施設なのに「図書館だけ」「公民館だけ」というように、組織別になってほしくない。 d.市民交流センターに来た人が、「これは3階へ行ってくれ」「あれは1階へ行ってくれ」というように、たらい回しにならないように、職員は同じ館(やかた)で働いているという一体感認識、情報共有が求められる。 e.「図書館は核」となるのかという問いがある。多様なベクトルの違う施設が複合化するからこそ、その「核」の役割や要件はなんだろうか。そこをしっかりと問う必要がある。【1・2回WS】 f.複合施設であることのメリットをどう活かしていくか、各機能がどう連携していくかを検討する必要もある。【1・2回WS】</p> <p><2>ゾーニング・運用 a.各機能別に事務室を設けるのか。 b.図書館はコアである。その図書館の3、4階(2フロア)の繋がりはどうなるのか。3階は3階の受付、4階は4階の受付があると、それぞれ分断し、単独の図書室レベルになってしまいそうで心配だ。 c.三日市公民館の従来の地区コミュニティの拠点としての機能・役割がどのように変化していくのかは気になる。市民交流センターの意義を理解しつつも地区コミュニティの拠点としての使い方の維持は可能か(地区ごとの催し等に使う機会が保障されることは非常に大事)。例:運動会後の反省会等【1・2回WS】 d.収納スペース、雑用、作業スペースは必要。 e.アイマスク、ハンモック(休憩スペース)があるとよい。 f.あらゆる市民活動のニーズを満たせるキャンパシティーが確保されることが望ましい。【1・2回WS】 g.会議室運用のあり方は全フロアで調整を図る余地は多いだろうか(利用実態に応じて柔軟に利用目的を随時変更する等)。【1・2回WS】 h.ボランティア活動に支えられている背景を考えると、十分な調理環境・配食環境は重視したい。【1・2回WS】 i.既存の活動団体の存在も考えると、各活動のバッティングを避けられるような配慮は欠かせない。【1・2回WS】 j.多機能が同居する複合施設だからこそ、さまざまな利用形態を考慮した搬入口・動線計画が望まれる。【1・2回WS】 k.個々人が他人の迷惑にならない限り自由に過ごせつつ、同世代や多世代で相互に交流し支えあい助け合える(アシスト)空間であるといいのではないかと。【1・2回WS】 l.多様な使われ方をする空間だからこそ、適切なマナーやルールを明確にしておく必要があるのではないかと。【1・2回WS】</p> <p><3>設備 a.Wi-Fiが設置されれば、ビジネスをしている人は利用しやすいし、観光客も交流センターを訪れ、黒部市の情報を得ることができる。Wi-Fi、コンセント、冷暖房があり、パソコンの使用を可能としてほしい。 b.多くの人があるのでセキュリティを考える必要がある。エレベーターも防犯のためにスケルトンにする施設もあると聞いている。 c.急な病人を運ぶようにストレッチャーが入るエレベーターにするべきではないかと。</p>	

第4章	事業計画	1	① 事業内容(図書館機能)		
項目	現状	第3章での事業方針 基本構想での位置づけ	調整方針	ワークショップでの議論 <6/19 第3・4回WS>	
			<p>1. 市が事業主体となる事業の例示</p> <p>①開館日の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全館統一した開館日の設定（平日の休館日の設定、土日祝の開館）を検討する。 <p>②図書館サービス提供時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の学習室以外に、フリースペース、共用スペース等を利用した学習等の場を設置し、利用可能時間の延長（9：00～22：00）等を検討する。 <p>③各種スペースの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター内のフリースペース、共用スペース等を学習の場、ビジネス支援の場（資格取得等の学習）として活用することで、従来の静寂な学習室のほかに、少しにぎやかな環境で学生等が自由に読書や学習に利用したり、議論や交流したりできる場の提供を検討する。 <p>④資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルアーカイブについて、図書館以外の他部署、他機関と連携した文化的、歴史的資料の保存と継承を検討する。 ・ビジネス関連（就活本・起業本等）コーナーの設置や企画展を検討する。 <p>⑤広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流センター内のさまざまな活動について、月刊誌等の発行による情報発信を検討する。 <p>⑥子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子がおしゃべりしながらゆったり安心して過ごすスペースの設置を検討する。 ・親子で読書できるコーナーの設置を検討する。 ・飲食スペースや授乳室の設置を検討する。 ・おむつ替え、フィッティングボード、車椅子、障害者に対応した多目的トイレの複数設置を検討する。 ・トイレに子ども用の便器の設置を検討する。 ・3階にベビーカー置き場の設置を検討する。 	<p><4>カフェ・飲食</p> <ul style="list-style-type: none"> a. ゆっくり時間を過ごしたいのでカフェスペース(飲食可能なスペース)は必要。 b. チェーン店のコンビニやコーヒー店ではなく地元のもので扱う店が入るとよい。 c. 飲食可の場所があってもいい(市役所庁舎交流スペースのイメージ)。 d. カフェがある場合、臭いが気になるかもしれないので、空間づくりの際に考慮する必要がある。 <p><5> 市が事業主体となる事業の例示</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 図書館以外は平日に休館しないでほしい。 b. ビジネス支援は土曜日、日曜日に対応してもらいたい。 c. サークル活動の場合、仕事が終わってからの活動が主であるため、夜20時開館では早すぎる。公民館活動は21時終了では早い。図書館は20時開館であっても、1～2階は22時開館の方が良いのではないかな。 d. 図書館開館以前に返却できるとよい。散歩がてらブックポストに入れるだけでなく散歩がてらの休憩ができる場所があればよい。 e. 廊下を広くして、簡単な会議はそこでできるようにするとよい。 f. 「子育ては子育て」「図書館は図書館」というように、一つの目的だけで利用しに来るのではなく、利用者が多目的を持ってきてもらえるような施設にしたい。 g. 図書館に来た人が他の機能を見えるように(目的を持って来た人が別のことをする)。 h. 明確な目的がない人が予期せぬ出会いや刺激があるとよい。 i. 図書館の本を持ち出し、公民館活動での利用は可能か。市民交流センター全館での閲覧を可能にしたい。 j. 図書館の閉館時間でも雑誌等、少し読める本が1階に配置されているとよい。 k. 三日市のまちあるきガイドブックが古くなったので更新したい。図書館の資料を使い、まちの魅力を伝えたい(和菓子屋めぐりもできるのでは)。 l. 調理室を使って、絵本に出てくるレシピを再現する。それをいただきながら絵本の読み聞かせを行う。 m. 図書館展示と連携した料理教室の開催 n. 連携を考える際に、市民交流センターが市内のさまざまな活動を広報・告知・拡散する一助になるという可能性は考えられないか(例: デジタルサイネージ(電子看板)の導入等)。【1・2回WS】 o. 弁当を持って子どもと出かけられるなど、いろいろな使い方ができる施設であるとよい。 p. 子育て支援機能との融合として、全フロアに授乳・おむつ替えスペースがほしい。 q. 赤ちゃんの駅を各階にほしい。 r. 「親子で楽しめる」「親同士が交流できる」「子育て相談ができる」という、今までの機能を引き継ぎたい。プラス図書館との相乗効果を期待したい。 s. 現行の子育て支援センターのように、子育て相談事業等が実現されるとよいのではないかな。【1・2回WS】 t. 各階にミニ図書スペースがあったらいい(おむつ替えスペースのそばなど)。図書館への誘導になるのではないかな。 	

第4章	事業計画	1	① 事業内容(図書館機能)		
項目	現状	第3章での事業方針 基本構想での位置づけ	調整方針	ワークショップでの議論 <6/19 第3・4回WS>	
			<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーカーごと利用できるエレベーターの設置を検討する。 ⑦青少年支援(進路・進学・就活) <ul style="list-style-type: none"> ・夜間に大学生アルバイトを活用し、貸出業務に従事させることにより、“中高生に寄りそう“相談相手”としての活用を検討する。 ・図書資料「ヤングコーナー」を通じて、学生(中高生・大学生等、帰省中の大学生等)や若年層(IUJターナー)への進路・就業に関する情報提供、自由な交流の場の創出を検討する。 2. 他機関・民間団体等が事業主体となる事業の例示 <ul style="list-style-type: none"> ①ボランティア <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな団体等のボランティアにより、利用者の多様なニーズに対応した支援活動を検討する。また、多様な世代が協力して活動することにより、ボランティアによる世代間交流について検討する。 ②ビジネス支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークとの連携による就職支援情報の提供を検討する。 ・新生活を支援するビジネスマナーに関する企画展などを検討する。 ③子育て支援 <ul style="list-style-type: none"> ・現状のサービスレベルを引き継ぎながら、子育て支援センター等他機関との連携により、書籍を活用した育児講座の開催など検討する。また、掲示板等を利用し広く情報提供をしていくことを検討する。 	<p>u.他地域での子育て支援施設の見学経験からすると、遊び場的な空間だけでなく、そこに図書館機能や飲食スペースがあることは欠かせないのではないか。【1・2回WS】</p> <p>v.「夜間、大学生のアルバイト」とあるが、日中に受け入れてもよいのではないか。</p> <p><6> 他機関・民間団体等が事業主体となる事業の例示</p> <ul style="list-style-type: none"> a.市内のサークル活動を支える資料の提供をしながら、市民活動を応援したい。 b.市内にこのようなサークルがあるかわからない。サークルの案内やメンバー募集のお知らせする市民活動の総合案内として機能できるのではないか。 c.交流センターを利用するサークルが一斉に集う「センターまつり」ができるとうい。 d.連携の前提としてのさまざまな活動や団体、店舗等の情報の集約が必要ではないか(潜在的には存在するが、気づいていない情報の多さ)。【1・2回WS】 e.市民交流センター内での相互連携によって多様な社会体験・発表の場を提供できないか(単なる利用にとどまらず、料理を身につける、ファッションを学ぶ、読み聞かせを通して子育てを体験する等)。【1・2回WS】 <p>d.託児機能があると、親が図書館を利用できるようになる。</p> <p>e.子育て支援機能を活用する子育て世代が図書館も十分に使える環境を確保したほうがよいのではないか。具体的には、ファミリーサポートセンター(子どもの一時預かり)の機能が追加されれば、託児可能となり、この環境は実現できるのではないか。【1・2回WS】</p> <p>f.子育て支援機能とファミリーサポートセンター(子どもの一時預かり)が連携すれば、市民は機能を超えて市民交流センターを活用できるのではないか。【1・2回WS】</p> <p>g.図書館をネグレクト(=育児・監護放棄等)の場にしてはいけない。(お年寄りや子どもを一日中置いておく。)</p> <p><7> 商店街との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> a.水だんご、牧場のジェラートづくりなど、黒部市の地産地消を活性化させる取り組みを実施できないか。 b.駐車場で朝市を行うことで農業支援もなる。ただ野菜を売るだけでなく、その野菜を使ったレシピ本の紹介も同時できる。 c.交流センターのオープンに向けて商店街で、新しい商品の開発を行っている店もある。その店の商品を交流センターで紹介したい。店主の講演会等も実施可能。 d.商店主と接する機会(まちゼミ等)があるとよい。 e.最近、体験型が注目されているので、体験型の機会を提供する施設となれるとうい。 f.市民交流センターから始まる活動を商店街でトライアル(お試し販売)するような連携の可能性はないだろうか(チャレンジショップほどの話ではない)。【1・2回WS】 g.まちの駅と連携ができるのではないか。 h.市民交流センター建設予定地は黒部市の中心市街地にかかっているエリアであり、今後の商店街地域との連携は非常に重要である。【1・2回WS】 i.市民交流センターから商店街への回遊を仕掛けていく仕組みが実現できないだろうか。 	

第4章	事業計画	1	① 事業内容(図書館機能)		
項目	現状	第3章での事業方針 基本構想での位置づけ	調整方針	ワークショップでの議論 <6/19 第3・4回WS>	
				<p>【1・2回WS】 j.黒部市役所のピロティも活用してもらいたい。交流センター、商店街、市役所とつなげることで人が行き来し、盛り上がりをつくれぬか。 <8>「サードプレイス」について a.初めて聞いた言葉であるが、違和感はない。 b.最初に違和感あったが、意外になじんでくるという気がする。【1・2回WS】c.「サード」という言葉の語感も決して悪くないものにとらえたほうがよいのではないか。【1・2回WS】 d.「サードプレイス」という言葉のシティブロモーション(自治体のPR)上の有効性はある。【1・2回WS】 e.職場等とは別に同じ興味・関心の人々が集り場としての意味での納得感がある。【1・2回WS】 f.さまざまな使い方のなかで「私を見つける場所」と言えるのではないか。【1・2回WS】 g.実感としては宇奈月子育て支援センター(子連れにとってのアクセシビリティの高さ)が「サードプレイス」。言い換えるなら、「憩いの場」である。【1・2回WS】 h.コンセプトはどうか、施設が十分に機能すれば問題ないとも言える。いずれ実感されるはず。【1・2回WS】 i.わかりにくさもあるので、なんらかの説明・ルビがあるとよいのではないか。【1・2回WS】 j.「文字」だけで注釈なく見たときにわかるかどうかは大事なポイント。【1・2回WS】 k.「学ぶ、楽しむ、集り私たちの自由空間」という言い方もありえるのではないか。【1・2回WS】 l.サードプレイスであるのと同じく、本来的には「ファーストプレイス」を目指すべきではないだろうか。【1・2回WS】 m.メインコンセプトの「サードプレイス」は既に全国放送で使われている言葉、別の黒部らしい言葉に変えた方がよいのではないか。 n.順番をつけるというニュアンスに違和感がある。【1・2回WS】 o.海外の方に向けて「サード」は適切な用語か。【1・2回WS】</p>	